

## 審査の結果の要旨

氏名 金子明代

本研究は漢方薬である半夏厚朴湯の抗うつ作用や抗不安作用の薬理機序を明らかにするために、うつ状態や不安の原因に強く関わっている脳内のモノアミン（セロトニン、ノルアドレナリン、ドパミン）およびその代謝物量に対する効果をマウスを用いて調べたもので、半夏厚朴湯エキス製剤 TJ16 と半夏厚朴湯構成生薬による効果が評価された。下記の結果を得ている。

1. TJ16 の長期投与により、視床下部セロトニン・ノルアドレナリン量と線条体ドパミン・ドパミン代謝物量が増加した。またそれぞれの代謝率（[代謝物濃度]／[モノアミン濃度]）は低下した。
2. 半夏厚朴湯構成生薬のハンゲがセロトニン代謝率を低下させ、ハンゲとソヨウがドパミン代謝率低下に影響を与えた。
3. TJ16 投与によるドパミン代謝変化は他のモノアミンと比較し早期から現れ、複数の構成生薬がドパミン代謝に影響をあたえた。半夏厚朴湯が特にドパミン代謝に強く影響を与える可能性が示された。

以上、本研究はこれまで明らかにならなかったマウス視床下部セロトニン・ノルアドレナリンおよびその代謝物量と線条体ドパミンおよびその代謝物量の変化を明らかにすることで、半夏厚朴湯のうつ状態や不安などに対する効果の薬理機序解明に役立つものと考えられ、学位授与に価すると考えられる。